エピローグ　No7

　その後の調べで分かったことだが、このホテルを創立したキッシュという男は元々マフィアの幹部であった。それは娘のローザでさえ知らない事であったのだが。

　ジャックが若いころ彼もまたマフィアに属していたのだが、彼は組織内で大きな過ちを犯した。それは組織にバレれば身の破滅はまぬがれないものであった。

　キッシュはこの若いジャックの過ちを自らの力でもみ消したが、その代償に組織から離脱する事になってしまった。
　その後この秘境の地で第二の人生を歩むべく、ホテルを設立したのだという。

　組織を抜けたとはいえキッシュの人望は絶大であり、彼の在命中はマフィアも手をだす事はなかった。だが彼の亡き後、彼の財産を狙うマフィアが現れた。ジャックの力では彼らをかわす事はできず、ローザを巻き込んで死なせてしまったという。

　当時ローザには双子の娘が居たが、彼女が死んだ場合はその子供に財産が移るはずであった。

そうなってしまったら、組織はその双子の命を狙ってくるだろう。

　彼は土地の権利書を改ざんし、自分と…当時自分を疑い調べまわっていた男、デッドと連名を記すことにした。

　デッドとは元ローザの夫で、双子の父親…　つまり私の事だ。

　ジャックはそうする事で不意に自分が命を落としたとしても、安易に他の誰かに財産が渡らないようにしたのだ…と思う。

　つまり、常連客として通っていた私などの事など、当の昔からバレていた…というわけだ。

結局あの事件の後、ロンは自らの罪を告白自首をした。

彼もまた、ジャックという男の尊厳を改めたという訳だ。

　この事件は、地方の新聞の片隅に小さく報道された。

　支配人を殺害したロンは、殺人罪として有罪判決をうけたが、事件当時ジャックが刃物を所持していた事実が認められ、判決では大幅な減刑がくだされた。

　ジェシカは事件の後、高校の教師を辞めた。

キャシーとは色々あったけれども、なんとか落ち込んでいた彼女と共に歩む道を選んだ…
そして…2人でホテルの立て直しを決意したのである。

それから5年の歳月が流れ…

ロンの刑期が終わり、 キャシーと再会した日の事を私は忘れない。
彼はまた一からホテルで働きたいと申し出て、泣きながら私たちは迎え入れた。

人は過ちをおかすものだ。 そして過ちは、人生を狂わし…悪夢をみせる。

だが夢はいつかは、覚める。 覚めなければならない。

それからさらに一年後　二人は結婚し、子供を授かった。

私は失意の人生をずっと歩んできたが、今はとても幸せである。

2人の娘と共に暮らし、孫までさずかったのだから…

秘境にそびえたつ小さなホテルは、少しずつ立て直し始めている。

ホテル支配人代理　デッドの手記より